

新規受験申請の訓練実施記録の書き方（レベル 1,レベル 2）

新規受験申請時に受付不備となるケースで一番多く見られるのは、訓練実施記録の不備によるものです。ここではレベル 1 及びレベル 2 の受験申請において受付不備とならないために訓練実施記録の一般的な作成手順を **Step1～4** で説明します。

Step1 受験するNDT方法・レベルに必要な訓練時間を確認してください。

受験申請を行う条件として、各NDT方法・レベルごとに訓練時間が下表のように設定されています。

NDT 方法略称	レベル 1	レベル 2	
		レベル 1 資格所有者	レベル 1 資格非所有者
R T	4 0 時間	8 0 時間	1 2 0 時間
U T	4 0 時間	8 0 時間	1 2 0 時間
M T	1 6 時間	2 4 時間	4 0 時間
P T	1 6 時間	2 4 時間	4 0 時間
E T	4 0 時間	4 0 時間	8 0 時間
S M	1 6 時間	2 4 時間	4 0 時間
U M	1 6 時間	—	—
M Y	8 時間	1 6 時間	2 4 時間
M E	8 時間	—	—
M C	8 時間	—	—
P D	8 時間	1 6 時間	2 4 時間
P W	8 時間	—	—

訓練（講習会）は当協会の業務課講習会係でも実施していますが、協会の 1 回の講習時間では受験申請に必要な訓練時間を満たさないものもあります。当協会HPの「教育活動・講習会」にて日程（訓練時間計）を確認し、社内訓練等も合わせて計画的に訓練を受けてください。訓練者がいる場合は社内教育を行い訓練者に訓練証明書を準備してもらう方法も現在のところ認めています。（訓練証明書は実施日から 5 年間有効となります）

※本資料は、JIS Z 2305:2001 に基づく内容です。規格の改正等により資格及び認証制度が改正された場合、変更等もありますので予めご了解ください。

Step2 受験申請書に添付する訓練証明書を用意してください。

訓練に関する基本的な考えは、訓練実施（教育指導）者が予め訓練対象者に対して各NDT方法に対応した習得すべき内容（カリキュラム）を検討し、それに沿って目的をもった教育を実施することを指します。従って、訓練カリキュラムの存在しない現場工程に沿った通常の実地作業は経験値にはなりますが、受験申請書に添付する訓練時間には該当しません。また、一人で行う個人学習も認められません。

訓練実施記録は、受験申請書提出時に必要な添付書類です。受験申請書提出受付初日から遡って5年以内の訓練日のものが有効となります。従って、1枚の訓練実施記録でも訓練日が5年以上経過したものがあれば、その部分に限っては訓練時間の対象とはなりません。

表1 推奨する受験レベルと訓練者の資格レベルの関係

受験するレベル	訓練者の保有資格
レベル1	レベル2以上
レベル2	レベル2以上
レベル3	レベル3

（1）協会（他協会含む）や公共団体、その他団体の講習会を受講した場合

講習会の主催団体に訓練実施記録を提出してもらってください。

記載例については→[訓練 A \(Page7/8 参照\)](#)

（2）社内訓練の場合（注：自己学習は訓練時間としては認めません）

社内訓練とは、社内の有資格者がカリキュラムに基づいて訓練を実施し自社で訓練実施記録を作成（カリキュラムの提出を求める場合がありますので、カリキュラムは保管して置いてください）。社内訓練等を実施される場合は、[協会HPに掲載](#)されている「推奨カリキュラム」を参考にしてください。

（a）訓練責任者を置かない場合

記載例については→[訓練 B \(Page8/8 参照\)](#)

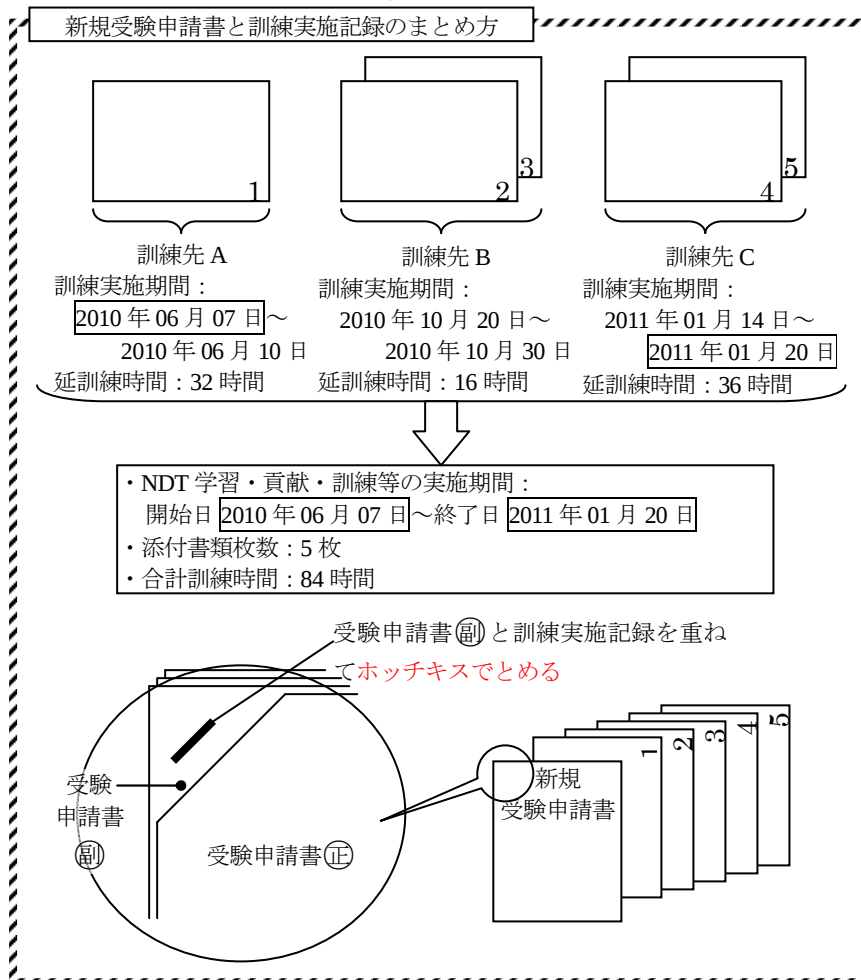
（b）訓練責任者を置いた場合

記載例については→[訓練 A \(Page7/8 参照\)](#)

※訓練者が表1に該当しない場合でも、相応の「訓練者」としての技術・知識があると「訓練責任者」（雇用主または雇用に関して責任のある管理者）が判断できる場合は、「訓練責任者」を置いて訓練を実施した旨を記入してください。

（3）他会社の訓練を受講した場合

他会社の訓練とは、社内に訓練できる技術者がいない場合に、知り合いの会社の技術者に訓練を依頼した場合等が該当します。依頼した訓練者に訓練実施記録を作成してもらってください。記載例については→[訓練 B 参照 \(Page8/8 参照\)](#)



Step4 受験申請書へ添付した訓練内容を記載してください。

(記入例)

新規受験申請書に **2010年6月7日から2011年1月20日**の間に実施した **84** 時間分の訓練実施記録の添付書類が **5** 枚添付されている場合。

NDT 学習・貢献・訓練等開始日 (西暦)				NDT 学習・貢献・訓練等終了日 (西暦)				添付書類枚数	合計訓練時間								
2	0	1	0	0	6	0	7	2	0	1	1	0	1	2	0	5 枚	84

◆レベル1及び2受験者は必ず記入。レベル3受験者は必要に応じ記入 (訓練先ごとにまとめて記入)

訓練先名称	訓練実施期間	延訓練時間	書類No.
日本非破壊検査協会	2010年 6 月 7 日~2010年 6 月 10 日	32 時間	1
(株) 巢地井瑠鉄鋼	2010年 10 月 20日~2010年 10月30 日	16 時間	2,3
花子検査(株)	2011年 1 月 14日~2011年 1 月 20 日	36 時間	4,5
	年 月 日~ 年 月 日	時間	
	年 月 日~ 年 月 日	時間	
合計訓練時間		84 時間	

◆レベル3受験者のみ記入 (該当する□に✓記入。訓練を受けた者は上表に記入)

NDT 学習・貢献 (項目の後の () 内に示された証明書の添付必須)	書類No.
☐ 個人的学習 (その学習に使用した参考書名、発行社名を記載した証明書)	
☐ 研究・論文発表 (その発表を行った場 (主催団体名、発表会名) とそのタイトルを記載した証明書)	
☐ 書籍・解説等の執筆 (その執筆した書籍名、発行社名、タイトルを記載した証明書)	
☐ 講演会・セミナー等に参加 (主催した団体名と会議名又はセミナー名を記載した証明書)	

訓練先名称とは主たる訓練を行った団体や会社名を指します。「〇〇鉄工所内研修所」や「▲▲ビル施工現場」等の場所ではありませんので注意してください。

◆ その他 ◆

よく頂戴する質問で「OJT(On the Job Training)は訓練時間として認められるか？」という内容がありますが、答えは YES です。ただし、OJTも Step2 で説明したように、教育訓練の目的を持ち教育指導者がいることが前提となります。従って、訓練実施記録には他の訓練と同様に訓練内容や訓練実施者の名前が必要となります。提出いただいた訓練実施記録でOJTの内容が読み取れない場合は、より細かい訓練(OJT)計画書を提出いただく場合があります。

<悪い例>

訓練内容	訓練時間	訓練実施期間		
		開始	終了	
××サイトにおける超音波技術習得のOJT	50	2010.10.01	2011.02.01	

<良い例>

訓練内容	訓練時間	訓練実施期間		
		開始	終了	
××サイトにおけるOJT	-			
探傷装置の取り扱い習得①	6	2010.10.01	2010.10.01	
〃 ②	5	2010.10.15	2010.10.15	
〃 ③	5	2010.11.01	2010.11.01	
〇〇の垂直探傷の習得①	6	2010.11.15	2010.11.15	
〃 ②	6	2011.12.01	2011.12.01	
〃 ③	5	2011.12.15	2011.12.15	
××の斜角探傷の習得①	6	2011.01.05	2011.01.05	
〃 ②	6	2011.01.15	2011.01.15	
〃 ③	5	2011.02.01	2011.02.01	

以上

添付資料「訓練A」および「訓練B」の＊部の説明

注意) ＊2, ＊3 の事項については原本に記入しないでコピーしたものに記入すること。

- ＊1 訓練を行った機関又は個人(訓練者)が訓練を受けた者の氏名を記入する。
- ＊2 訓練を受けた者が、コピーした書類に提出の都度、自筆で署名、押印する。
- ＊3 集合訓練の訓練実施記録は訓練先名称ごとでまとめ、受験申請書提出時にはコピーした訓練実施記録に通し番号を記入する。
例) ○○○株式会社 1／4
 △△△株式会社 2／4
 JSNDI 教育センター 3／4
 XYZ 講習会 4／4
- ＊4 当協会ホームページ「資格試験」の「訓練」の「推奨する訓練カリキュラム」を参考にしてください。
- ＊5 訓練時間は延べ時間とし、30分単位の延べ時間とする。例) 1時間30分は1.5と表記する。
- ＊6 訓練実施期間は訓練内容ごとに開始した日と終了した日を記入する。
- ＊7 訓練者の氏名、資格(JSNDI発行の資格)、認証番号(JIS Z 2305)を記入する。
~~←2009年9月30日までの訓練について、訓練者の資格がNDIS 0601の場合は、個人登録番号を記入する。→~~
- ＊8 訓練責任者を置かない訓練の場合は訓練者が各訓練内容ごとに押印をする。
- ＊9 訓練責任者を置いた集合訓練の場合には訓練責任者氏名、押印、所属等を記入する。
訓練責任者を置かない訓練の場合は記入不要。

試験委員会からのお願い

事実とは異なる「訓練実施記録」を受験申請書に添付するという事例が増えております。受験申請において、事実と異なる「訓練実施記録」を添付した場合、虚偽の申請となり、「訓練実施記録」の発行に関与した者(訓練実施者及び訓練責任者)、受験申請者、受験申請を証明した雇用責任者にも処分が科されますので、必ず「訓練実施記録」の内容に間違いがないことを確認してから申請するようお願い致します。

※本資料は、JIS Z 2305:2001に基づく内容です。規格の改正等により資格及び認証制度が改正された場合、変更等もありますので予めご了解ください。

訓練A

様式見本1〔訓練責任者を置いた例〕

【訓練実施記録】

/

 枚(*3)

NDT方法・レベル	超音波探傷試験レベル2
訓練を受けた者の氏名(*1)	田川 真一
訓練を受けた者の署名(*2)	田川 真一 (田川)

* 原本には署名しないで、コピーしたものに自筆署名・押印してください。

証明日 2014. 07. 19

訓練内容(*4)	訓練時間 (延時間)	訓練実施期間(西暦年. 月. 日)(*6)		実施場所	訓練者(*7)			
		開始	終了		氏名	押印	資格	認証番号
探傷技術者の役割と資格認証規程	1.5	2014.06.10	2014.06.10	JSNDI 訓練センター	鈴木 太郎	印	UTL3	N10002039
超音波探傷試験の基礎	2.0	2014.06.10	2014.06.10	JSNDI 訓練センター	大林 一郎	印		
探傷装置	1.0	2014.06.10	2014.06.10	JSNDI 訓練センター	青木 道夫	印	UTL3	N10002040
垂直探傷	1.0	2014.06.10	2014.06.10	JSNDI 訓練センター	青木 道夫	印	UTL3	N10002040
斜角探傷	1.0	2014.06.10	2014.06.10	JSNDI 訓練センター	野本 悟	印	UTL2	N10002041
厚さ測定	1.0	2014.06.10	2014.06.10	JSNDI 訓練センター	青木 道夫	印	UTL3	N10002040
欠陥と評価	2.0	2014.06.11	2014.06.11	JSNDI 訓練センター	山下 雄二	印	UTL3	N10123123
実習－超音波探傷試験の基礎	2.5	2014.06.11	2014.06.11	JSNDI 訓練センター	山下 雄二	印	UTL3	N10123123
実習－垂直探傷	4.0	2014.06.11	2014.06.11	JSNDI 訓練センター	山下 雄二	印	UTL3	N10123123
実習－斜角探傷	8.0	2014.06.12	2014.06.12	JSNDI 訓練センター	山下 雄二	印	UTL3	N10123123
実習－厚さ測定	1.5	2014.06.13	2014.06.13	JSNDI 訓練センター	山下 雄二	印	UTL3	N10123123
実習－試験体の探傷	4.0	2014.06.13	2014.06.13	JSNDI 訓練センター	斎藤 俊介	印	UTL2	N10124567
						印		
						印		
						印		

上記のとおり訓練を実施したことを証明します。 合計 29.5 時間

(*9) 訓練責任者	フルナ 氏名	クンレン ジロウ 訓練 二郎 (訓練)	印	役職名	技術部長	電話	03-5609-4014
						FAX	03-5609-4062

訓練先名称 (訓練責任者の所属する会社・団体・機関・学校等)	名称	非破壊試験訓練センター	所在地	〒 136-0071 東京都江東区亀戸2-25-14
-----------------------------------	----	-------------	-----	-------------------------------

* 本訓練実施記録は原本となります。原本は各自保管し、受験申請時にはコピーを添付してください。

訓練B

様式見本2〔訓練責任者を置かない例〕

【訓練実施記録】

 枚 (*3)

NDT方法・レベル	超音波探傷試験レベル2
訓練を受けた者の氏名 (*1)	田川 真一
訓練を受けた者の署名 (*2)	田川 真一 (田川)

* 原本には署名しないで、コピーしたものに自筆署名・押印してください。

証明日 2014. 07. 19

訓練内容 (*4)	訓練時間 (延時間)	訓練実施期間 (西暦年. 月. 日) (*6)		実施場所	訓練者 (*7)			
		開始	終了		氏名	押印	資格	認証番号
探傷技術者の役割と資格認証規程	1.5	2014.06.10	2014.06.10	〇〇〇(株)	鈴木 太郎	(鈴木)	UTL3	N10002039
超音波探傷試験の基礎	2.0	2014.06.10	2014.06.10	〇〇〇(株)	亀田 有三	(亀田)	UTL3	N10002042
探傷装置	1.0	2014.06.10	2014.06.10	〇〇〇(株)	青木 道夫	(青木)	UTL3	N10002040
垂直探傷	1.0	2014.06.10	2014.06.10	〇〇〇(株)	青木 道夫	(青木)	UTL3	N10002040
斜角探傷	1.0	2014.06.10	2014.06.10	〇〇〇(株)	野本 悟	(野本)	UTL2	N10002041
厚さ測定	1.0	2014.06.10	2014.06.10	〇〇〇(株)	青木 道夫	(青木)	UTL3	N10002040
欠陥と評価	2.0	2014.06.11	2014.06.11	〇〇〇(株)	山下 雄二	(山下)	UTL3	N10123123
実習一超音波探傷試験の基礎	2.5	2014.06.11	2014.06.11	〇〇〇(株)	山下 雄二	(山下)	UTL3	N10123123
実習一垂直探傷	4.0	2014.06.11	2014.06.11	〇〇〇(株)	山下 雄二	(山下)	UTL3	N10123123
実習一斜角探傷	8.0	2014.06.12	2014.06.12	〇〇〇(株)	山下 雄二	(山下)	UTL3	N10123123
実習一厚さ測定	1.5	2014.06.13	2014.06.13	〇〇〇(株)	山下 雄二	(山下)	UTL3	N10123123
実習一試験体の探傷	4.0	2014.06.13	2014.06.13	〇〇〇(株)	斎藤 俊介	(斎藤)	UTL2	N10124567
						印		
						印		
						印		

上記のとおり訓練を実施したことを証明します。 合計 29.5 時間

(*9) 訓練責任者	フリガナ	印	役職名	電話
	氏名			FAX

訓練先名称 (訓練責任者の所属する会社・団体・機関・学校等)	名称	所在地	〒
-----------------------------------	----	-----	---

* 本訓練実施記録は原本となります。原本は各自保管し、受験申請時にはコピーを添付してください。